

「参加と協働のまちづくり条例（案）」に対する意見等の募集について

平成19年7月から「（仮称）大口町町民参加条例策定会議」が中心となり、検討を重ねてきた「参加と協働のまちづくり条例」の条例案がまとまりました。

これまでも、条例の骨子・構成案がまとまった段階で、地区懇談会等を通じて皆さんから貴重な意見をお寄せいただきましたが、今回、条例案についても広く公表し、皆さんから幅広い意見を募り、最終案としてまとめていきたいと考えています。

ぜひ、この条例をより良いものとするために、皆さんのご意見やご提案をお寄せください。

大口町役場 地域協働部 地域振興課

■意見を提出できる方

町内に在住・在勤・在学している方、町内のまちづくり活動に関わっている方

■募集期間

平成21年4月27日（月）から5月15日（金）まで

■提出方法

文書（郵送、FAX、電子メールまたは持参）にて提出してください。

※様式は任意ですが、別紙（最終ページ）をご利用いただくと便利です。

【提出先・問合せ先】

役場地域振興課 〒480-0144 大口町下小口七丁目 155 番地

電話：95-1111（内線114） FAX：95-1030

E-mail：chiiki@town.oguchi.lg.jp

【注意事項】

○電話での意見は受けかねますので、あらかじめご了承ください。

○住所・氏名・電話番号（FAX番号）・電子メールアドレス、また、条例のどの部分に対する意見なのかを記載してください。

○提出いただいたご意見等については、条例案策定の参考にさせていただき、検討の後にご意見の要旨とこれに対する回答を公表します。（個別に回答することはありません。）

※大口町個人情報保護条例に基づき、個人を特定できる情報（氏名・住所等）については公表しません。

■素案の閲覧方法

【インターネットによる閲覧】

町のホームページ：http://www.town.oguchi.aichi.jp/

【文書による閲覧】

○地域振興課（役場1階）、保健センター（ほほえみプラザ1階）

※土・日曜日及び祝日を除く 8:30～17:30

○町立図書館（中央公民館3階） ※月・火曜日を除く 8:30～17:30（祝日開館）

○生涯学習課（温水プール2階） ※月・火曜日及び祝日を除く 8:30～17:30

「参加と協働のまちづくり条例」の構成

前文 〈条文では表わせきれない、大口町民の精神やまちの姿、条例を必要とする社会的背景や、これからのまちづくりの基本姿勢などを明らかにしています。〉

第1章 共通の原則 第1条 条例の目的 〈条例をつくる目的や、条文に用いられる用語
第2条 用語の意味 の意味を定めています。〉

〈 “参加と協働のまちづくり” の考え方や主体者の役割を定める部分 〉

第2章 基本理念 第3条 まちづくりの基本的な考え
第4条 参加と協働の基本的な約束
第5条 参加と協働のまちづくりの姿

第3章 役割と責務 第6条 まちづくりの担い手等の役割
第7条 地域自治組織の責務
第8条 地域自治組織と町の執行機関との関係
第9条 議会の責務
第10条 町の執行機関の責務

〈 “参加と協働のまちづくり” を進めるため新たに設ける制度 〉

第4章 参加と協働の約束に基づく制度
第11条 参加と協働の制度
第12条 提案検討会議
第13条 政策検討会議
第14条 意見公募手続
第15条 制度の選択
第16条 出前対話
第17条 地域懇談会
第18条 元気なまちづくり事業

第5章 住民投票制度
第19条 住民投票にかけることができる
重要事項
第20条 住民投票の投票権がある者
第21条 住民からの請求による住民投票
第22条 住民投票の形式
第23条 住民投票の実施
第24条 住民投票の成立要件等
第25条 投票結果等の告示及び通知
第26条 請求の制限期間
第27条 投票結果の尊重

第6章 その他の事項 第28条 条例の見直し 〈この条例が社会情勢等の変化に応じて見
第29条 規則に任せる事項 直されることや、ここに定められない内
容は別に規定することを示しています。〉

参加と協働のまちづくり条例（案）の主なポイント

この条例は、大口町における“まちづくり”のあり方や方向性を明らかにする“憲法のような”条例です。“憲法のような”とは、この条例が“権力者に対する命令”であるということ。このため、特に役場など「町の執行機関」が行うべき役割を明確に定めています。

大口町における“まちづくり”の基本的な考え方は？

★条例の「第2章 基本理念」で定めています。

○大口町のまちづくりの主役は皆さんであり、皆さんの様々な「参加と協働」の営みによって、このまちをつくることを明らかにしています。【第3条：まちづくりの基本的な考え方】

○「参加と協働」によりまちづくりを進める際、それが強制されたり、主体的な活動が制限されたりすることがないように、“みんなが努めるべきルール（約束）”を定めています。【第4条：参加と協働の基本的な約束】

○まちづくりに、皆さんが持っている“知恵や経験が活かされる”など、「参加と協働」によって期待できる効果について確認しています。【第5条：参加と協働のまちづくりの姿】

“まちづくり”における皆さんの役割は？

★条例の「第3章 役割と責務」で定めています。

○住民の皆さんを始め、様々なまちづくりを担う方たちの基本的な役割は、まちづくりへの責任ある発言と行動です。それは、第2章で定めるとおり、皆さんが“まちづくりの主体者”だからです。

○その他、皆さんに最も身近な「地域自治組織」や、大口町の「議会」、そして、役場等の「町の執行機関」が果たすべき“責務”を明らかにしています。

○特に「町の執行機関」は、「参加と協働のまちづくり」を進めるために必要な政策を、責任を持って行わなければならないことを明らかにしています。

この条例ができると、具体的に何かが変わるの？

★この条例の「第2章 基本理念・第3章 役割と責務」の定めにもとづいて、これまでに無かった新たな制度が設けられます。それが、「第4章 参加と協働の約束に基づく制度」と「第5章 住民投票制度」です。例えば…

○「町の執行機関」が、皆さんからの意見・提案を受け止めて、一緒になって実現の可能性を考えていけるように…。

⇒「提案検討会議（第12条）」を設けます。

○皆さんの暮らしなどに影響を及ぼす重要な政策は、「町の執行機関」で勝手に決めてしまわず、皆さんへ事前に公表し、皆さんの意見や提案を聞き、それを政策に反映するように…。

⇒「政策検討会議（第13条）」「意見公募手続（第14条）」を設けます。

○その他にも、「住民投票制度（第5章 第19条～第27条）」など、幾つかの制度を設けています。

参加と協働のまちづくり条例（案）

春、若草に立ち上る陽炎、咲き誇る五条桜、満ち溢れる水の光

夏、緑豊かな田園風景、躍動する無数の命、^{みなぎ}漲る活力

秋、黄金色の稲穂の波、自然の恵みの^{みの}豊り、豊穰の喜び

冬、寒さの中で絶えることない産業の響き、人々の活動

凍てつく天を指す、春に備えて^{ほうが}萌芽を秘めた木々の梢

先人たちは、恵まれた自然を活かし、英知と努力によって、歴史と活力のあるまち「おおぐち」を築いてきました。しかし、戦後60年を経過し、少子高齢化や環境問題など暮らしを取りまく社会経済環境は急激に変化しています。そして、地方分権の進展で私たち一人ひとりが地域の課題から眼をそらさず、自らの責任で考え、決め、行動する住民自治の時代が来ています。

幸いにも、私たちのまち「おおぐち」は、「住民の参加と参画のまちづくり」を目標に掲げ、多くの取組みを重ねて、住民、NPO及び企業が協働し、それぞれが活躍する自主と活気に溢れるまちとなっています。

私たちは、まちづくりの主体として、この成果をさらに発展させるとともに、自らの役割と責任を自覚し、一人ひとりの「自立の精神」を大切にしながら、互いに思いやりのある優しい気持ちで見守り支え合う「共助の精神」をみんなで共有します。

私たちは、明るい希望に満ちた明日を拓くため、住民が地方自治の主権者であることを明らかにし、まちづくりの基本規範として、「参加と協働のまちづくり条例」を制定します。

第1章 共通の原則

（条例の目的）

第1条 この条例は、参加と協働のまちづくりの基本理念、制度等を定めるとともに、まちづくりの中心となる住民やまちづくりの担い手の役割と地域自治組織、議会や町の執行機関の責任と義務を定め、参加と協働のまちづくりを推進するこ

とにより、大口町の発展と住民福祉の向上に継続して取り組むことができるまちを実現することを目的とします。

(用語の意味)

第2条 この条例で使用する用語の意味は、次のとおりとします。

(1) 「住民」とは次の三つの者をいいます。

ア 大口町内に居住する個人

イ 大口町内で営利を目的としない活動を継続的に行う住民団体

ウ 大口町内で公益、非営利又は営利を目的に活動している事業所

(2) 「地域自治組織」とは、町の執行機関との協働等により地域自治を推進することができる組織で、秋田区、豊田区、大屋敷区、外坪区、河北区、余野区、上小口区、中小口区、下小口区、垣田区とさつきヶ丘区をいいます。

(3) 「まちづくりの担い手」とは次の三つの者をいいます。

ア 住民や地域自治組織

イ 大口町外から大口町内に通勤又は通学している個人

ウ 大口町のまちづくりに関わる大口町外に居住する個人

(4) 「町の執行機関」とは、大口町の町長、選挙管理委員会、農業委員会、教育委員会、固定資産評価審査委員会や監査委員とこれらに所属する職員をいいます。

(5) 「参加」とは、町の執行機関が行う政策の形成や実施とその評価に、住民又はまちづくりの担い手が意見、提案等を行うことにより意思表示することをいいます。

(6) 「協働」とは次の二つのことをいいます。

ア まちづくりの担い手が、営利を目的とせず公共の課題を解決するため、相互に連携や協力をすること。

イ まちづくりの担い手と町の執行機関が、共通の課題を解決するため、相互に尊重しあい、それぞれの知恵と工夫を活かしながら、平等な立場で連携や協力をすること(こののち、「町の執行機関との協働」といいます。)

(7) 「まちづくり」とは、大口町を活性化するため、地域社会が抱えている課題を解決する取組みや地域社会の価値を創造するための取組みをいいます。

第2章 基本理念

(まちづくりの基本的な考え)

第3条 地方自治における主権は住民にあり、地方自治は住民の意思と責任で営まれなければなりません。

2 地方自治における住民主権は、住民が地域社会の在り方に深い関心を持ち、積極的にその意思を表明し、参加と協働の一翼を担うことで実現されます。

3 住民に最も身近な組織である地域自治組織が、その地域の課題解決に自ら取り組むことにより地域自治が実現され、さらに住民主権の地方自治を確かなものとしします。

4 住民主権の地方自治を実現するためには、それを実現するための大口町の議会(こののち、「議会」といいます。)と町の執行機関の強い意思が必要となります。

5 このため、住民、地域自治組織と議会や町の執行機関は、それぞれが持つ役割と責務を理解し、参加と協働のまちづくりを進めていきます。

(参加と協働の基本的な約束)

第4条 参加と協働については、次のことを基本的な約束とします。

(1) 参加と協働は、まちづくりの担い手の意思と判断によるものであり、強制されることはありません。

(2) まちづくりの担い手の自主的な活動や参加と協働は制限をされず、また干渉を受けません。

(3) 子ども(満20歳未満の個人をいいます。)も、その年齢に応じて、参加と協働のまちづくりに加わり活動する権利が認められます。

(4) 町の執行機関は、まちづくりの担い手の自主的な活動が促進されるよう必要な連絡、調整等を担います。

(5) まちづくりの担い手は、町の執行機関が保有する情報について、正確な内容により積極的に公開を受ける権利が認められています。

(6) まちづくりの担い手は、町の執行機関と協働で行う事業に関して説明をする機会、参加の機会や事業の成果に関して報告する機会が認められます。

(7) 議会と町の執行機関は、まちづくりの担い手が参加と協働を進めることが

できるよう努めなければなりません。

(8) 町の執行機関は、まちづくりの担い手との協働において、互いに平等な関係を実現しなければなりません。

(参加と協働のまちづくりの姿)

第5条 参加と協働のまちづくりは、大口町のまちづくりを次のように変えます。

(1) まちづくりの担い手の持つ知恵や工夫をまちづくりに活かすことができます。

(2) まちづくりの担い手が得意とする分野と町の執行機関が得意とする分野を活かしあうことにより、無駄なく効果的に課題を解決することができます。

(3) まちづくりの担い手による住民の状況に応じたきめ細かな援助を提供することができます。

(4) 地域自治組織が地域自治を担うことにより、その地域に根差した課題を地域の特色を活かし効果的に解決することができます。

(5) 町の執行機関が政策を考える過程で、住民又はまちづくりの担い手に対してその政策についての説明責任を果たすことで、両者の信頼関係を築くことができます。

第3章 役割と責務

(まちづくりの担い手等の役割)

第6条 まちづくりの担い手は、参加と協働のまちづくりの取組みにおいて、責任ある発言と行動に努めます。

2 まちづくりの担い手は、町の執行機関との協働で事業を実施しようとするときは、事業を実施する理由、目的等を公表し、事業の実施に当たってはその継続と改善に努めます。

3 住民は、地域自治組織における自らの役割を踏まえ、積極的に地域自治組織で活動するよう努めます。

(地域自治組織の責務)

第7条 地域自治組織は、地域住民にとって最も身近な公共的組織として、「一人

ひとりの「自立の精神」を大切にしながら、互いに思いやりのある優しい気持ちで見守り支え合う「共助の精神」を共有できる組織です。

2 このため、地域自治組織は、自らが解決できる地域の課題については、主体的に
取り組むものとしします。

3 地域自治組織は、自らが解決できない地域の課題については、町の執行機関との協働により解決を図るものとしします。

(地域自治組織と町の執行機関との関係)

第8条 町の執行機関は、地域自治組織が地域自治を担うため必要となる組織や制度の整備について、地域自治組織と話し合いながら取り組みます。

2 町の執行機関は、地域自治組織の自立性と自主性を尊重しながら地域自治を実現するために必要な権限と財源を、地域自治組織に引き渡すものとしします。

(議会の責務)

第9条 議会は、この条例の目的と基本理念を尊重し、住民を代表する意思決定機関としての自覚を持って説明責任を果たし、住民に開かれた議会運営に努めなければなりません。

(町の執行機関の責務)

第10条 町の執行機関は、この条例の目的と基本理念を理解し、責任を持って政策を実施しなければなりません。

2 町の執行機関は、参加と協働のまちづくりを進めるために必要な環境整備と基盤整備に努めなければなりません。

3 町の執行機関は、大口町の職員が参加と協働のまちづくりの意味を理解し、参加と協働のまちづくりを政策に反映できるよう意識改革や技能の向上を図らなければなりません。

4 町の執行機関は、政策を実施する責任やその結果に対する責任を負うとともに、それらを住民又はまちづくりの担い手に説明する責任を負います。

5 町の執行機関は、住民又はまちづくりの担い手の意見が政策に反映されるとともに、政策の実施に参加できるよう努めなければなりません。

第4章 参加と協働の約束に基づく制度

(参加と協働の制度)

第11条 第5章の住民投票制度のほか、参加と協働のまちづくりを実現するため必要となる制度を次条から第14条までと第16条から第18条までに定めるものとします。

(提案検討会議)

第12条 5人以上のまちづくりの担い手(この場合、一つの住民団体や一つの事業所を1人の住民とします。第16条第1項においても同じ取扱いとします。)の

連

署により大口町全体を対象とする政策案の提案があったときには、政策案の提案者と町の執行機関がその提案の必要性、実現の可能性等について共同で検討します(このうち、この手続きを「提案検討会議」といいます。)。ただし、次の事項は提案検討会議の対象となる事項からは除きます。

(1) 町の執行機関の権限ではない事項

(2) 議会や町の執行機関の人事に関する事項

(3) 以前に提案検討会議で検討の対象とした事項や規則の定めるところにより提案検討会議において検討することが適さないと判断されその旨を公表した事項

(4) 第1号から第3号に定めるもののほか、提案検討会議の対象とすることが適当でないと明らかに認められる事項

2 提案検討会議は、検討を行ってきた政策案について提案検討会議を開催した最初の日から計算して90日以内(やむを得ない理由があるときは、120日以内とします。)に、その政策案についての取扱いを決定するものとします。

3 提案検討会議で検討をする政策案の受付や提案検討会議の庶務は地域協働部地域振興課で行うものとします。

(政策検討会議)

第13条 住民の生活や活動とまちづくりの担い手の活動に大きく影響を及ぼすことが考えられる政策の実施に当たっては、事前に町の執行機関はその政策の目的、

目標、方法その他必要な情報を、住民又はまちづくりの担い手に説明し、意見や提案を受けるものとします(こののち、この手続きを「政策検討会議」といいます。)

2 町の執行機関は、政策検討会議開催日から計算して 30 日前までに次のことを公

表するものとします。ただし、大口町情報公開条例(平成 11 年大口町条例第 28 号。こののち「情報公開条例」といいます。)第 7 条各号の情報に当たるものについては、公表しません。

- (1) 政策検討会議により住民又はまちづくりの担い手から意見や提案を受けようとする計画、条例、制度等の案やこれらに関連する資料
- (2) 政策検討会議に参加できる者の資格
- (3) 政策検討会議を開催する日時と場所

3 政策検討会議の庶務は、総務部政策推進課で行うものとします。

(意見公募手続)

第 14 条 重要な計画や条例を策定し、又は変更するときは、事前に町の執行機関は次のことを公表して、住民又はまちづくりの担い手の意見や提案を受けるものとします(こののち、この手続きを「意見公募手続」といいます。)

- (1) 意見公募手続により住民又はまちづくりの担い手の意見や提案を受けようとする計画、条例、制度等の案やこれらに関連する資料
- (2) 意見や提案を行うことができるものの範囲
- (3) 意見や提案の提出先と提出の方法
- (4) 意見や提案の提出期間

(制度の選択)

第 15 条 町の執行機関は、第 13 条の政策検討会議又は前条の意見公募手続のどちらかふさわしい方法により、住民又はまちづくりの担い手からの意見や提案を受けるものとします。

(出前対話)

第 16 条 5 人以上のまちづくりの担い手から町の政策について説明を求める要望があるときは、町の執行機関は、説明の要望のあった政策に関して説明を行い、

又はまちづくりの担い手との意見交換を行うものとし(このうち、この手続きを「出前対話」といいます。)

- 2 出前対話を要望するまちづくりの担い手は、別に定める様式により地域協働部地域振興課に出前対話の申込をするものとし(このうち、この手続きを「地域懇談会」といいます。)

(地域懇談会)

- 第 17 条 大口町長(このうち、「町長」といいます。)は、毎年 4 月から翌年の 3 月までの間に一回以上小学校区ごとに、まちづくりの担い手と意見の交換を行うものとし(このうち、この手続きを「地域懇談会」といいます。)

- 2 地域懇談会の庶務は、地域協働部町民安全課で行うものとし(このうち、この手続きを「元気なまちづくり事業」といいます。)

(元気なまちづくり事業)

- 第 18 条 町の執行機関は、参加と協働のまちづくり活動を広く把握し支援するため、大口町 NPO 活動促進条例(平成 12 年大口町条例第 46 号)の定めるところにより、まちづくりの担い手の登録制度を設けるとともに、登録したまちづくりの担い手が行う事業のうち公益性があると思われる事業を支援します(このうち、この手続きを「元気なまちづくり事業」といいます。)

- 2 元気なまちづくり事業は、地域協働部地域振興課で行うものとし(このうち、この手続きを「元気なまちづくり事業」といいます。)

第 5 章 住民投票制度

(住民投票にかけることができる重要事項)

- 第 19 条 住民投票にかけることができる町政運営上の重要事項(このうち、「重要事項」といいます。)は、現在又は将来の住民主権の地方自治又は住民の福祉に重大な影響を及ぼし、又は及ぼすおそれのあるものとし(このうち、この手続きを「住民投票にかけることができる事項」といいます。)

- (1) 町の執行機関の権限ではない事項
- (2) 法令の規定に基づき住民投票を行うことができる事項
- (3) 特定の住民又は地域に係る事項
- (4) 議会や町の執行機関の組織、人事又は財務に関する事項

(5) 第 1 号から第 4 号に定めるもののほか、住民投票に付することが
が適当でないと明らかに認められる事項

(住民投票の投票権がある者)

第 20 条 住民投票の投票権がある者(こののち、「投票資格者」とい
ます。)は、公職選挙法(昭和 25 年法律第 100 号。こののち、「公職
選挙法」といいます。)第 22 条の選挙人名簿に登録されている者で、
その者に係る大口町の住民票が作成された日(他の市町村から大口町
に住所を移した者で住民基本台帳法(昭和 42 年法律第 81 号。このの
ち、「住民基本台帳法」といいます。)第 22 条の規定により転入の届
出をしたものについては、当該届出をした日)から引き続き 3 か月以
上大口町の住民基本台帳に登録されているものとします。ただし、選
挙人名簿に登録されている者であっても、住民基本台帳法第 24 条の
規定により転出の届出をしたものは、投票資格者からは除きます。

(住民からの請求による住民投票)

第 21 条 投票資格者は、前条の投票資格者の総数の 10 分の 1 以上の
者

の連署をもって、その代表者から、町長に対し、重要事項について住
民投票を実施することを請求することができます。

2 町長は、前項の規定による請求があったときは、住民投票を実施し
なければなりません。

(住民投票の形式)

第 22 条 前条第 1 項に規定する請求による住民投票に係る事項は、二
者択一で賛否を問う形式のものとして請求されたものでなければな
りません。

(住民投票の実施)

第 23 条 町長は、第 21 条の規定により住民投票を実施するときは、
直ちにその旨を大口町公告式条例(昭和 25 年大口村条例第 3 号)第 4
条に基づき告示しなければなりません。

2 町長は、前項の規定による告示の日から計算して 90 日以内に住民投票の投票の期日(こののち、「投票日」といいます。)を定め、住民投票を実施するものとします。

(住民投票の成立要件等)

第 24 条 住民投票は、一つの住民投票を行った事項について投票した者の総数が当該住民投票の投票資格者数の 2 分の 1 に満たないときは、成立しないものとします。この場合においては、開票作業その他の作業は行いません。

2 住民投票の結果は、有効投票総数の過半数をもって決するものとします。

(投票結果等の告示及び通知)

第 25 条 町長は、前条の規定により住民投票が成立しなかったとき、又は住民投票が成立し、投票結果が確定したときは、直ちにこれを告示するとともに、第 21 条第 1 項の代表者及び議会の議長にこれを通知しなければなりません。

(請求の制限期間)

第 26 条 この条例による住民投票が実施された場合(第 28 条第 1 項の
規定により住民投票が成立しなかった場合を含みます。)には、その投票結果の告示の日から 3 年間は、同一の事項又はその事項と同じ趣旨の事項について、第 21 条第 1 項の規定による請求を行うことができません。

(投票結果の尊重)

第 27 条 住民、議会と町の執行機関は、住民投票の投票結果を尊重しなければなりません。

(投票及び開票)

第 28 条 前条までに定めるもののほか、住民投票の投票や開票に関し必要な事項は、公職選挙法、公職選挙法施行令(昭和 25 年政令第 89

号)や公職選挙法施行規則(昭和25年総理府令第13号)と大口町公職選挙管理規程(昭和42年選管規程第1号)の例によるものとします。

第6章 その他の事項

(条例の見直し)

第29条 議会と町の執行機関は、地方自治における住民主権を実現するため、この
の
条例が常に社会や大口町の状況に合った内容になるよう努めなければなりません。

(規則に任せる事項)

第30条 第12条から第14条までと第16条から第18条までに定める参加と
協働
の約束に基づく制度と第5章に定める住民投票制度については、この条例に定めるもののほか規則で定めるものとします。

附 則

この条例は、公布の日から施行します。ただし、第4章、第5章と第30条の規定は、平成22年4月1日から施行します。

「参加と協働のまちづくり条例（案）」に対する意見等

(氏 名)	(年齢)	歳
(住 所)	電 話： FAX： E-mail：	

意見等の内容	
(該当箇所) ※何ページ(何条)のどの部分に対する意見かをお書きください。	
(意見等の内容)	